

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「ふるさと子どもカレッジ事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

地域の企業等の協力のもと、石巻の自然・文化・歴史を活かした体験活動を取り入れた講座を開設することにより、子どもたちの豊かな心を育み、自らの故郷について知り、学ぶ機会を創出する事業。

ポイント

- ✓ 地域の学習力を生かした体験活動 (地域産業の担い手などを講師とする)
- ✓ 通学区以外の同年代の仲間との交流 (参加者は市内学校に通う小学5・6年生)
- ✓ カレッジでしか行けない場所へ行ける (参加者規模・移動手段などの要因)

成果

- ICT担当課と連携した事業や、包括連携協定を活用し、民間企業の知識や人脈を生かした事業に取り組むことにより、多種多様な体験を提供できた。
- 地元企業の「お仕事見学・体験」をとおして、自分たちの住む地域にどんな企業(や人)がある(いる)のか知ることができる。また、地域の魅力を再発見し、将来の夢や地元就職を考えるきっかけづくりとなった。

今後の方向性

- 地元大学やNPO団体等と連携し、より多種多様な体験を提供していく。
- 事業認知度向上のため、市報や学校へのおたよりなどにより、活動内容を周知していく。これにより、さらに多くの子どもたちに体験の機会を提供していく。

内容

企画名	地区	図No.
1 ジュニア・リーダー交流会、パークゴルフ体験	河南	①
2 地引網漁体験【中止】	北上	—
3 石巻ひばり野バイオマス発電所見学	石巻	②
4 木の屋石巻水産工場見学	美里	③
5 有機農法栽培野菜の収穫体験	北上	④
6 林業現場見学、作業体験	河北	⑤
7 石巻市博物館 ICTクイズラリー	石巻	⑥

①



④



②



⑤



③



⑥



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「子ども読書活動推進事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

ブックスタート事業として、3・4か月健診時に乳児とその保護者を対象に、ボランティアによる読み聞かせとブックスタートパックの配布を実施している。
読み聞かせボランティア等を対象に、年3回の研修会を開催している。



↑ブックスタートパック

内容

ブックスタート事業……健診時に絵本2冊、アドバイスブック、図書館からのお知らせ等を布製バックに入れたブックスタートパックを配布。令和5年6月ボランティアによる読み聞かせを再開した。
研修会……ブックスタートボランティア研修会(10月)、石巻市子ども読書推進研修会(11月)、読み聞かせボランティア研修会(3月)の3回を開催した。



↑研修会の様子

ポイント

- ①……ブックスタート事業は市内に生まれたすべての乳児、その保護者を対象としている。
- ②……市内には読み聞かせボランティアが192名おり、小学校、図書館等でも活躍している。

成果

- ・ブックスタート事業……令和5年度は約600セットのブックスタートパックを配布した。配布時のアンケートでは100%の保護者が「ブックスタートにより、子どもへの読み聞かせに繋がる」と好意的に回答した。
- ・研修会……ブックスタートボランティア研修会には5名、石巻市子ども読書推進研修会には16名読み聞かせボランティア研修会には25名、計46名が参加した。

今後の方向性

- ・ブックスタート事業……今後もボランティア参加人数を制限する等、感染症対策を取りながら読み聞かせ、ブックスタートパックの配布を実施する。
- ・研修会……年3回の開催を続け、ボランティアの養成、知識・技術の習得を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「子どもたちが共に学び合う地域活動」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

学校の授業では体験出来ない自然の家を活用した体験学習、学校や学年を超えた幅広い交流、収穫から調理までを一貫した食育体験などを通じて青少年の健全育成を図るとともに、子どもたちの自主性や創造性、集団における協調性を養うことを目的としている。



内容

小学校5・6年生を対象とした事業「わんぱく教室」を実施している。例年、キャンプでのテント泊や野外炊飯、食育体験、その他体験活動を計画し、通年に渡り事業を実施。なお、白石市ジュニアリーダー「キャロル」が指導者として小学生の指導にあたることによって、将来のジュニアリーダーの育成、子どもの青少年健全育成を図れるような活動を展開している。

ポイント

- ①小学生にとって、学校や学年を超えた交流を図る機会を創造した。
- ②ジュニア・リーダーは地域の子どもを引っ張る存在として、公民館事業への参加やイベントへの出店など、地域活動に積極的に参加した。



成果

- ・地域資源を活用し、**地域への愛着、郷土愛を育む一助となり**、様々な世代との交流をすることができた。また、小学生で他校児童と交流することで中学校生活へのスムーズな移行の一助となっている。
- ・ジュニアリーダーの人数減少、活動意欲の低下が課題として挙げられているが、新メンバーも入会し、**自分たちができることを協議しながら**、工夫して活動を実施している。



今後の方向性

- ・より地域の自然や伝統文化に触れる機会を増やし、シビックプライドの醸成を図りつつ、将来の担い手を育成できるように、子どもたちを中心に、地域住民が地域を見つめなおす機会を提供し、事業を進めたい。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動(地域活動)の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

【地域活動(地域力向上事業)】

災害時に主体的に対応しようとする青少年の育成及び地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を通して地域教育力の向上を図る。

内容

・市内公民館等の協力を得て、防災キャンプ等を実施し、幅広い年代層(中高生や大学生を含め)の地域住民等との体験活動をとおして、災害時に主体的に対応しようとする青少年の育成及び地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を図る。

ポイント

- ・児童を対象とした宿泊を伴う防災キャンプを実施し、非常食による調理実習や宿泊等の幅広い体験活動を行った。
- ・高校生がワークショップを行い、中学生がグループのまとめ役として児童と一緒に体験活動を行い、地域の次代を担う人材育成へとつながっている。
- ・地域活動の拠点である公民館で実施するとともに、地元企業や防犯対策協議会の協力を得ることで、災害時や非常時に体験活動で得た知識やスキルを発揮することができる。

成果

・児童に幅広い体験活動を提供するとともに、中学生、高校生、大学生、地域住民、地元企業等幅広い立場や年齢層の方々の参画による多様な交流活動によりコミュニティの醸成を図ることができ、学びの循環が創出され、地域教育力の向上につながった。

今後の方向性

・防災をテーマに地域住民等の協力を得ながら事業を継続的に取り組むことが、次代を担う人材の育成へとつながっていくと考える。今後は、より多くの児童生徒が参加できるように周知方法を工夫するとともに、多様な交流活動ができるように、地元企業や団体のネットワークを広げていく。



非常食での調理実習



高校生によるワークショップ



避難所開設体験